

平成 23 年度

練馬区資源・ごみ排出実態調査報告書

平成 2 4 年 3 月

練 馬 区

(目次)

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査期間	1
3 調査地域	1
4 作業場所	2
5 調査方法	2
6 分析方法	4
7 留意事項	4
8 資源化可能物の定義	4
第2章 調査結果	6
1 サンプル量	6
2 組成割合	6
(1) 可燃ごみ	6
(2) 不燃ごみ	9
(3) 容器包装プラスチック	12
3 排出容器	15
(1) 可燃ごみ	15
(2) 不燃ごみ	16
(3) 容器包装プラスチック	17
第3章 過去の調査結果との比較	18
1 可燃ごみの組成割合による比較	18
2 不燃ごみの組成割合による比較	19
3 容器包装プラスチックの組成割合による比較	20

第1章 調査概要

1 調査目的

本調査は、家庭から排出される可燃ごみ、不燃ごみおよび容器包装プラスチックの組成割合を明らかにし、資源化可能物の混入割合や正しく分別しているごみの割合を把握することを目的とする。

2 調査期間

平成23年9月5日(月)～10日(土)の6日間で実施した。

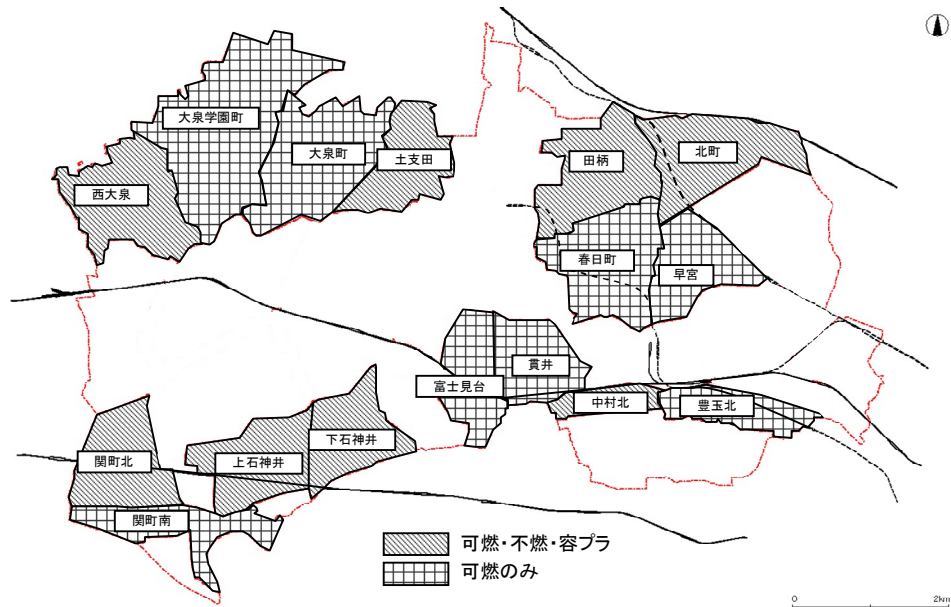
3 調査地域

調査地域は、住居形態別に偏りがないう、「A：戸建て中心地域」、「B：戸建て・低層集合住宅地域」、「C：中低層住宅・商業混在地域」、「D：商業地域・高層住宅地域」から選定した。

表1-1 組成分析調査の対象地域と調査住居区分

住居区分	対象地域	可燃ごみ	不燃ごみ	容器包装プラスチック	集積所数
A：戸建て中心地域	土支田4丁目				2
	西大泉4丁目				4
	大泉学園町4丁目				2
	大泉町2丁目				8
	関町南3丁目				3
B：戸建て・低層集合住宅地域	上石神井4丁目				4
	関町北4丁目				3
	春日町4丁目				3
	早宮1丁目				4
	富士見台4丁目				2
C：中低層住宅・商業混在地域	下石神井4丁目				5
	田柄2丁目				6
	貫井4丁目				3
D：商業地域・高層住宅地域	北町2丁目				3
	中村北3丁目				4
	豊玉北4丁目				2

図 1-1 組成分析調査の対象地域と調査区分



4 作業場所

東京二十三区清掃一部事務組合 光が丘清掃工場

5 調査方法

組成分析作業の流れを図 1-2 に示す。

図 1-2 組成分析フロー

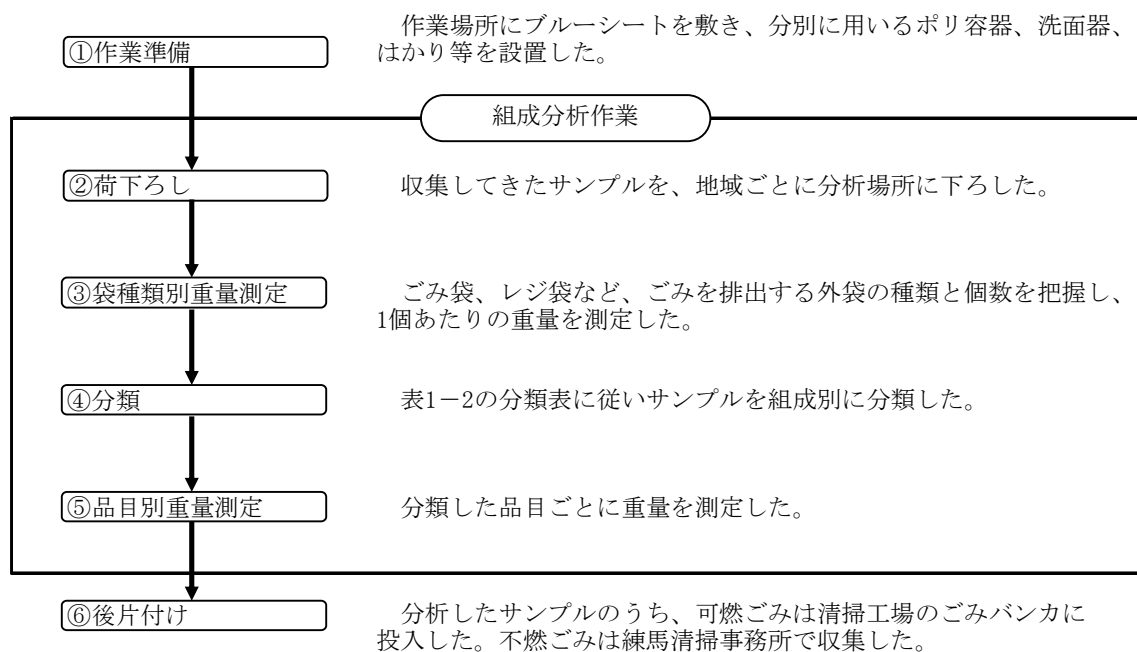




写真 荷下ろし



写真 袋種類別重量測定



写真 分類作業



写真 品目別重量測定



写真 分類後



写真 未利用食品

6 分析方法

分類

表1-2のように「可燃物」、「不燃物」、「処理困難物」に区分した。

分別不適物混入率および資源混入率

可燃ごみは「資源化可能物」、「不燃物」および「処理困難物」を、不燃ごみは「資源化可能物」、「可燃物」および「処理困難物」を、容器包装プラスチックは「容器包装プラスチック以外の資源化可能物」、「可燃物」、「不燃物」および「処理困難物」を分別不適物とし、分別不適物が混入している割合を算定した。また、「資源化可能物」が入っている割合を資源混入率として算定した。

「リサイクル不可の容器包装プラスチック」の分類の設定

昨年度まで、汚れが落ちないまたは落とすにくい容器包装プラスチックについても全て「資源化可能物」に分類して集計していたが、食品残さを取り除くためには、切り開く必要があるものや小さくて難しいものなどは、区民の手間ひま等を考慮し、可燃ごみにするようにしている。

こうしたことから、歯磨き粉やわさび等のチューブ、一辺が5cm以下のからし等のパック類などで汚れている容器包装プラスチックは、「リサイクル不可の容器包装プラスチック」として「可燃物」に分類した。

7 留意事項

表やグラフ中にある比率の合計値が、端数処理の関係上、100%にならない場合や合計と内訳が一致しない場合がある。

表やグラフ中で「0(ゼロ)」と表示されているところは、表示されている桁数より小さい値がある場合も含まれる。

8 資源化可能物の定義

資源化可能物は、可燃系と不燃系があり、行政回収・集団回収・販売店回収等により、資源化するルートがあるものを指す。

項目		内容
資源化可能物	可燃系	新聞、チラシ、パンフレット、雑誌・書籍、ダンボール、紙パック、包装紙、紙箱、紙袋、その他の紙、繊維、ペットボトル、白色トレイ、容器包装プラスチック
	不燃系	リターナブルびん、ワンウェイびん、スチール缶、アルミ缶、乾電池

表 1 - 2 分類表

分類	含むものの例	含まないものの例	資源化可能物
新聞 (リサイクル可)	他用途に使ってない新聞紙	新聞に入る広告・チラシ 折込広告	
折込広告 (リサイクル可)	新聞に入る広告・チラシ	ポスト投込のチラシ その他紙類 (リサイクル可)	
パンフレット (リサイクル可)	パンフレット、カタログ (4 P以上のもの)		
雑誌・書籍			
ダンボール	断面が段々になっている	ボール紙 その他紙類 (リサイクル可)	
紙パック	500ml以上の牛乳・ジュースの山型の紙パック	口がブラの酒パック 容器包装紙類 (リサイクル不可)	
容器包装紙類 (リサイクル可)	(紙だけの)包装紙、紙箱、紙袋、紙容器、500ml未満山型の紙パック	汚れているもの、ブラ・アルミのコーティングあり 容器包装紙類 (リサイクル不可)	
容器包装紙類 (リサイクル不可)	カップ類の紙容器・フタ、紙トレイ、紙カップ、ちぎった上質紙、投げ込みチラシ、ノート、ボール紙、封筒、はがき、レシート、名刺サイズ以上のリサイクルできる紙		
その他紙類 (リサイクル可)	汚れなどの付いていないメモ用紙、OA用紙、ちぎった上質紙、投げ込みチラシ、ノート、ボール紙、封筒、はがき、レシート、名刺サイズ以上のリサイクルできる紙	汚れたもの その他紙類 (リサイクル不可)	
紙おむつ			
リサイクル不可の紙類	カーボン紙、ワックス加工紙、防水加工紙、感熱紙、油紙、金紙、銀紙、ビニールコート紙、名刺サイズ未満、汚れた紙	ティッシュペーパーはその他可燃物	
繊維類 (リサイクル可)	衣類、タオル、毛布などで形のあるもの	ストッキング、ぬいぐるみ、絨毯、座布団などはその他可燃物	
繊維類 (リサイクル不可)	ちぎった布、雑巾など	ストッキング、ぬいぐるみ、絨毯、座布団などはその他可燃物	
生ごみ (その他)	残飯、残菜		
生ごみ (未利用食品)	賞味期限切れ、未開封、開封残り		
木草類	割り箸、竹串、コルク、庭木・落ち葉・草、生花		
旧推奨ごみ袋			
レジ袋 (外袋)			
レジ袋 (内袋)			
レジ袋 (未使用)			
容器包装対象フィルム	菓子袋、ラップ、レトルトなど形のないもの		
容器包装非対象フィルム			
ペットボトル	「PET」表示あり、飲料、醤油など	「PET」表示なし、飲料・食用以外 形のある容ブラ	
パック・カップ類	玉子や苺のパック、ヨーグルトやカップ類、納豆のカップ		
食品用の白色発泡スチロールトレイ	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで白色のもの	納豆パック 形のある容ブラ	
食品用の色付き発泡スチロールトレイ	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで柄の入っているもの		
その他容器包装プラスチック	チューブ、発泡スチロールなどの緩衝材、シャンプーや洗剤のボトル、キャップ類		
リサイクル不可の容器包装プラスチック	汚れの付着した容器包装プラスチック		
製品プラスチック	歯ブラシ、おもちゃ、バケツ、ビデオテープ	金属との複合物 その他不燃	
ゴム・皮革類		ビニール製靴・バッグ 製品プラスチック	
その他可燃物	ティッシュペーパー、タバコの吸殻、油を固めたもの、掃除機のごみ、脱脂綿、ガーゼ、包帯、生理用品、ぬいぐるみ		
リターナブルびん	一升びん、ビールびん (大中小、スタイニーボトル)		
ワンウェイびん	一升以外の酒、ジュース、ジャム、化粧品 (透明)	不透明な化粧品、薬等 その他不燃物	
スチール缶	飲用・食用・ペット缶	一斗缶より大きい缶 その他金属	
アルミ缶	飲用・食用・ペット缶	一斗缶より大きい缶 その他金属	
その他金属	飲用・食用以外の缶、オイル缶、一斗缶より大きい缶、アルミホイル、なべ・フライパン		
乾電池			
乾電池を除く電池	ボタン型、充電電池など		
蛍光灯、蛍光管		電球はその他不燃物	
スプレー缶 (残ガス・液なし)			
カセット式ガスボンベ (残ガスなし)			
ライター (残ガスなし)			
その他不燃物	割れたガラスびん、飲用・食用以外のびん (透明でない化粧品等)、びん以外のガラス、電球、使い捨てカイロ、乾燥剤、かさ、薬、陶磁器、小型家電	30センチ以上の粗大ごみ 調査対象外	
処理困難物	スプレー缶 (残ガス・液あり)		
処理困難物	カセット式ガスボンベ (残ガスあり)		
処理困難物	ライター (残ガスあり)	ライター、着火機器	
処理困難物	その他処理困難物	水銀体温計、医療系、土・砂・石、ペットの糞、タイヤなど	

第2章 調査結果

1 サンプル量

サンプル量は、可燃ごみが 2,091.68 kg、不燃ごみが 297.88 kg、容器包装プラスチックが 113.15 kg、合計 2,502.71 kgである。

2 組成割合

表1-2の分類表に従って調査した。

なお、昨年度まで、汚れが落ちないまたは落としにくい容器包装プラスチックについては、全て「資源化可能物」に分類して集計していたが、今年度から「リサイクル不可の容器包装プラスチック」として「可燃物」に分類することとした。

(1) 可燃ごみ

可燃ごみの組成は、可燃物が 78.1%、資源化可能物が 20.1%、不燃物が 0.6%、処理困難物が 1.2%である。

可燃物の内訳は、生ごみが 45.0%、木草類が 9.8%、製品プラスチックが 2.9%、ゴム・皮革類が 0.5%、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック(汚れが落ちないまたは落としにくいもの)が 3.5%、その他可燃物が 16.4%である。

資源化可能物の内訳は、紙類が 14.3%、びんが 0.2%、缶が 0.1%、ペットボトルが 0.4%、容器包装プラスチックが 3.0%、繊維類が 2.1%である。

可燃ごみのうち、分別が正しくないものが混入している割合は 21.9%である。

図 2 - 1 可燃ごみの組成分析結果

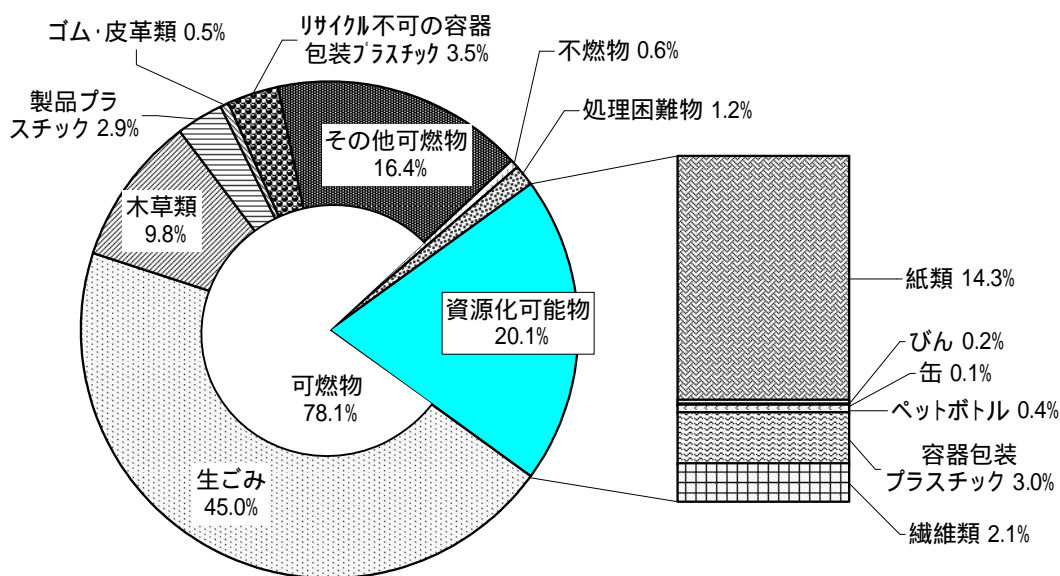


表 2 - 1 可燃ごみの組成分析結果

分類	A	B	C	D	合計
分別適正物（可燃物）	78.0%	77.3%	78.2%	79.4%	78.1%
生ごみ	47.4%	39.8%	46.2%	48.5%	45.0%
木草類	6.3%	15.8%	8.5%	6.7%	9.8%
製品プラスチック	3.2%	3.4%	1.9%	2.3%	2.9%
ゴム・皮革類	0.4%	0.8%	0.2%	0.4%	0.5%
リサイクル不可の容器包装プラスチック	3.3%	2.9%	3.5%	5.0%	3.5%
その他可燃物	17.4%	14.5%	17.8%	16.7%	16.4%
分別不適物	22.0%	22.7%	21.8%	20.6%	21.9%
資源化可能物	19.5%	21.2%	19.7%	19.9%	20.1%
紙類	13.7%	14.4%	14.6%	15.6%	14.3%
びん	0.0%	0.2%	0.5%	0.2%	0.2%
缶	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
ペットボトル	0.2%	0.7%	0.4%	0.2%	0.4%
容器包装プラスチック	3.1%	3.4%	2.5%	2.6%	3.0%
繊維類	2.4%	2.5%	1.6%	1.3%	2.1%
乾電池	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不燃物	0.7%	0.7%	0.7%	0.2%	0.6%
処理困難物	1.8%	0.8%	1.4%	0.5%	1.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）A～Dは表1-2に示す居住区分である。

表 2 - 2 可燃ごみの組成分析結果（詳細）

分類		A	B	C	D	合計
可燃物	生ごみ	45.9%	38.3%	44.5%	46.7%	43.3%
	生ごみ（未利用食品）	1.5%	1.5%	1.7%	1.8%	1.5%
	本草類	6.3%	15.8%	8.5%	6.7%	9.8%
	製品プラ	0.5%	0.4%	0.5%	0.7%	0.5%
	旧推奨ごみ袋	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	0.2%
	容器包装非対象フィルム	2.6%	2.9%	1.1%	1.3%	2.3%
	製品プラスチック	0.4%	0.8%	0.2%	0.4%	0.5%
	ゴム・皮革類	3.3%	2.9%	3.5%	5.0%	3.5%
	リサイクル不可の容器包装プラスチック	0.5%	0.8%	1.0%	0.8%	0.7%
	容器包装紙類(リサイクル不可)	6.6%	4.3%	4.4%	6.0%	5.4%
	紙おむつ	5.3%	4.5%	6.2%	4.8%	5.1%
	リサイクル不可の紙類	1.0%	0.5%	0.7%	0.4%	0.7%
	繊維類(リサイクル不可)	4.0%	4.4%	5.5%	4.7%	4.5%
	その他可燃物					
資源化可能物	新聞(リサイクル可)	1.6%	0.8%	1.9%	0.6%	1.2%
	チラシ(リサイクル可)	0.5%	0.7%	1.2%	1.8%	0.9%
	パンフレット(リサイクル可)	0.3%	0.6%	0.8%	0.6%	0.6%
	雑誌・書籍	2.0%	2.6%	2.4%	1.9%	2.2%
	ダンボール	0.6%	1.3%	0.9%	1.5%	1.0%
	紙パック	0.8%	0.7%	0.5%	0.7%	0.7%
	容器包装紙類(リサイクル可)	4.2%	4.6%	4.0%	4.1%	4.3%
	その他紙類(リサイクル可)	3.7%	3.1%	2.9%	4.4%	3.4%
	びん	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	リターナブルびん	0.0%	0.2%	0.5%	0.2%	0.2%
	ワンウェイびん	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
	缶	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	スチール缶	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	アルミ缶	0.2%	0.7%	0.4%	0.2%	0.4%
	ペットボトル	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%
	レジ袋(外袋)	0.4%	0.6%	0.4%	0.6%	0.5%
	レジ袋(内袋)	0.3%	0.1%	0.3%	0.2%	0.3%
	レジ袋(ごみ)	0.8%	1.0%	0.5%	0.3%	0.7%
	容器包装対象フィルム	0.5%	0.8%	0.3%	0.3%	0.5%
	パック・カップ類	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%
	食品用の白色発泡スチロールトレイ	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
	食品用の色付き発泡スチロールトレイ	0.8%	0.5%	0.5%	0.7%	0.6%
	その他容器包装プラスチック	2.4%	2.5%	1.6%	1.3%	2.1%
繊維類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
乾電池						
不燃物	その他金属	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%
	乾電池を除く電池	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	蛍光灯・蛍光管	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	スプレー缶残存ガス・液なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
	カセット式ガスボンベ残存ガスなし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライター残存ガスなし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他不燃物	0.6%	0.6%	0.6%	0.1%	0.5%
処理困難物	スプレー缶残存ガス・液あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	カセット式ガスボンベ残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライター残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他処理困難物等	1.8%	0.8%	1.4%	0.4%	1.2%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 不燃ごみ

不燃ごみの組成は、不燃物が69.2%、資源化可能物が18.5%、可燃物が10.3%、処理困難物が2.0%である。

資源化可能物の内訳は、紙類が0.2%、びんが11.1%、缶が2.9%、ペットボトルが0.6%、容器包装プラスチックが2.3%、乾電池が1.4%である。

可燃物の内訳は、生ごみが1.9%、木草類が0.4%、製品プラスチックが5.1%、ゴム・皮革類が1.3%、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック（汚れが落ちないまたは落とすにくいもの）が0.5%、その他可燃物が1.1%である。

不燃ごみのうち、分別が正しくないものが混入している割合は30.8%である。

図2-2 不燃ごみの組成分析結果

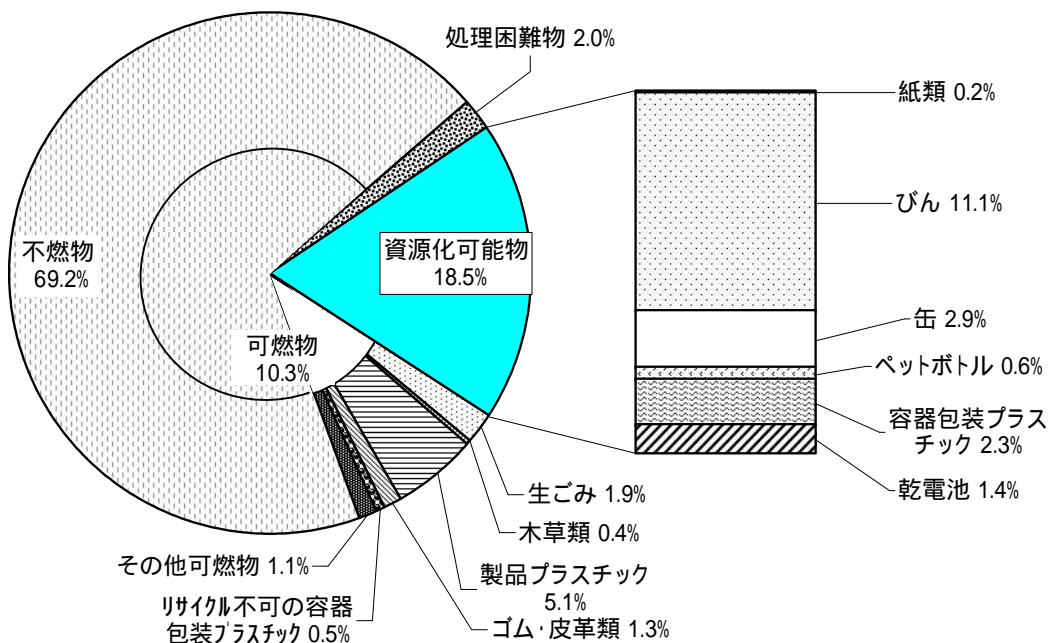


表 2 - 3 不燃ごみの組成分析結果

分類	A	B	C	D	合計
分別適正物（不燃物）	75.9%	64.5%	66.7%	67.9%	69.2%
分別不適物	24.1%	35.5%	33.3%	32.1%	30.8%
資源化可能物	14.6%	25.2%	15.8%	24.4%	18.5%
紙類	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.2%
びん	6.8%	18.1%	9.5%	15.7%	11.1%
缶	3.7%	3.7%	2.0%	2.3%	2.9%
ペットボトル	0.0%	0.2%	1.4%	0.0%	0.6%
容器包装プラスチック	2.6%	2.8%	2.3%	1.3%	2.3%
繊維類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
乾電池	1.6%	0.4%	0.4%	4.7%	1.4%
可燃物	9.4%	9.5%	12.8%	7.3%	10.3%
生ごみ	0.5%	1.2%	4.0%	0.0%	1.9%
木草類	0.1%	0.7%	0.6%	0.0%	0.4%
製品プラスチック	5.5%	6.5%	4.6%	4.4%	5.1%
ゴム・皮革類	2.0%	0.0%	0.7%	2.9%	1.3%
リサイクル不可の容器包装プラスチック	0.4%	0.2%	1.0%	0.0%	0.5%
その他可燃物	0.8%	1.0%	1.9%	0.0%	1.1%
処理困難物	0.1%	0.8%	4.7%	0.4%	2.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）A～Dは表1-2に示す居住区分である。

表 2 - 4 不燃ごみの組成分析結果（詳細）

分類		A	B	C	D	合計	
不燃物	その他金属	27.3%	6.9%	19.9%	18.8%	19.7%	
	乾電池を除く電池	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	蛍光灯・蛍光管	0.0%	0.0%	0.8%	2.7%	0.7%	
	スプレー缶残存ガス・液なし	2.5%	2.7%	2.4%	4.4%	2.7%	
	カセット式ガスボンベ残存ガスなし	0.0%	0.5%	0.8%	0.3%	0.4%	
	ライター残存ガスなし	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	0.1%	
	その他不燃物	46.1%	54.3%	42.7%	41.2%	45.6%	
資源化可能物	新聞(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	チラシ(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	パンフレット(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	雑誌・書籍	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	ダンボール	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	紙パック	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	容器包装紙類(リサイクル可)	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	
	その他紙類(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	
	びん						
	リターナブルびん	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.3%	
	ワンウェイびん	6.8%	18.1%	8.9%	15.1%	10.8%	
	缶						
	スチール缶	3.2%	2.1%	1.4%	1.2%	2.0%	
	アルミ缶	0.5%	1.6%	0.6%	1.1%	0.8%	
	ペットボトル	0.0%	0.2%	1.4%	0.0%	0.6%	
	容器包装プラスチック						
	レジ袋(外袋)	0.3%	1.4%	0.5%	0.5%	0.6%	
	レジ袋(内袋)	0.4%	0.2%	0.1%	0.5%	0.3%	
	レジ袋(ごみ)	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	
	容器包装対象フィルム	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	パック・カップ類	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	食品用の白色発泡スチロールトレイ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	食品用の色付き発泡スチロールトレイ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	その他容器包装プラスチック	1.8%	1.2%	1.6%	0.3%	1.4%	
	繊維類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	乾電池	1.6%	0.4%	0.4%	4.7%	1.4%	
	可燃物	生ごみ					
		生ごみ	0.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
		生ごみ(未利用食品)	0.0%	0.5%	4.0%	0.0%	1.6%
		木草類	0.1%	0.7%	0.6%	0.0%	0.4%
製品プラ							
旧推奨ごみ袋		0.4%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	
容器包装非対象フィルム		0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	
製品プラスチック		5.1%	6.2%	4.3%	4.2%	4.9%	
ゴム・皮革類		2.0%	0.0%	0.7%	2.9%	1.3%	
リサイクル不可の容器包装プラスチック		0.4%	0.2%	1.0%	0.0%	0.5%	
その他可燃物							
容器包装紙類(リサイクル不可)		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
紙おむつ		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
リサイクル不可の紙類	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%		
繊維類(リサイクル不可)	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%		
その他可燃物	0.4%	0.4%	1.8%	0.0%	0.8%		
処理困難物	スプレー缶残存ガス・液あり	0.0%	0.7%	0.3%	0.4%	0.3%	
	カセット式ガスボンベ残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	ライター残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	
	その他処理困難物等	0.1%	0.2%	4.4%	0.0%	1.6%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(3) 容器包装プラスチック

容器包装プラスチックの組成は、容器包装プラスチックが63.5%、容器包装プラスチック以外の資源化可能物が4.7%、可燃物が30.6%、不燃物が0.4%、処理困難物が0.8%である。

容器包装プラスチック以外の資源化可能物の内訳は、紙類が1.1%、びんが0.9%、缶が0.3%、ペットボトルが2.3%、乾電池が0.1%である。

可燃物の内訳は、生ごみが2.0%、木草類が0.3%、製品プラスチックが8.3%、ゴム・皮革類が1.2%、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック(汚れが落ちないまたは落とすにくいもの)が16.1%、その他可燃物が2.7%である。

容器包装プラスチックのうち、分別が正しくないものが混入している割合は36.5%である。

図2-3 容器包装プラスチックの組成分析結果

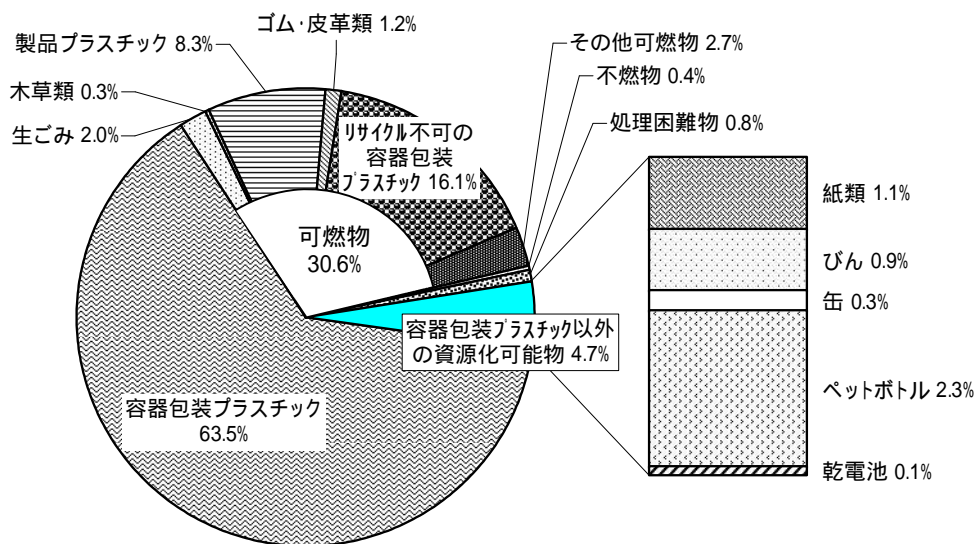


表 2 - 5 容器包装プラスチックの組成分析結果

分類	A	B	C	D	合計
分別適正物（容器包装プラスチック）	68.0%	60.4%	60.3%	66.1%	63.5%
分別不適物	32.0%	39.6%	39.7%	33.9%	36.5%
容器包装プラスチック以外の資源化可能物	5.0%	4.3%	3.5%	6.6%	4.7%
紙類	0.8%	1.0%	0.2%	3.1%	1.1%
びん	0.0%	2.4%	1.3%	0.0%	0.9%
缶	0.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.3%
ペットボトル	3.4%	0.4%	1.8%	3.5%	2.3%
繊維類	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
乾電池	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
可燃物	26.5%	29.8%	35.7%	26.9%	30.6%
生ごみ	0.3%	0.8%	3.5%	2.0%	2.0%
木草類	0.2%	1.0%	0.1%	0.3%	0.3%
製品プラスチック	7.0%	9.4%	10.2%	5.7%	8.3%
ゴム・皮革類	0.3%	7.0%	0.0%	0.2%	1.2%
リサイクル不可の容器包装プラスチック	16.8%	10.8%	17.2%	16.8%	16.1%
その他可燃物	1.9%	0.7%	4.6%	1.8%	2.7%
不燃物	0.3%	0.6%	0.5%	0.4%	0.4%
処理困難物	0.2%	4.9%	0.0%	0.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）A～Dは表1-2に示す居住区分である。

表 2 - 6 容器包装プラスチックの組成分析結果（詳細）

分類		A	B	C	D	合計
資源化可能物	容器包装プラスチック					
	レジ袋(外袋)	0.8%	1.8%	1.9%	2.0%	1.6%
	レジ袋(内袋)	2.0%	1.3%	1.1%	0.8%	1.3%
	レジ袋(ごみ)	1.8%	1.2%	1.6%	3.6%	2.0%
	容器包装対象フィルム	21.6%	20.0%	18.7%	14.7%	18.8%
	パック・カップ類	27.3%	22.6%	26.1%	24.1%	25.4%
	食品用の白色発泡スチロールトレイ	2.1%	1.4%	1.8%	1.8%	1.8%
	食品用の色付き発泡スチロールトレイ	2.0%	1.1%	0.9%	0.8%	1.2%
	その他容器包装プラスチック	10.4%	11.1%	8.2%	18.3%	11.3%
	紙類					
新聞(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
チラシ(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.3%	
パンフレット(リサイクル可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
雑誌・書籍	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
ダンボール	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	
紙パック	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	
容器包装紙類(リサイクル可)	0.3%	0.6%	0.0%	1.3%	0.5%	
その他紙類(リサイクル可)	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	
びん						
リターナブルびん	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
ワンウェイびん	0.0%	2.4%	1.3%	0.0%	0.9%	
缶						
スチール缶	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	
アルミ缶	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	
ペットボトル	3.4%	0.4%	1.8%	3.5%	2.3%	
繊維類	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
乾電池	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	
可燃物	生ごみ	0.3%	0.8%	3.5%	2.0%	2.0%
	生ごみ(未利用食品)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	木草類	0.2%	1.0%	0.1%	0.3%	0.3%
	製品プラスチック					
	旧推奨ごみ袋	1.4%	2.4%	1.4%	1.7%	1.6%
	容器包装非対象フィルム	1.5%	0.8%	2.1%	0.3%	1.4%
	製品プラスチック	4.1%	6.2%	6.7%	3.7%	5.3%
	ゴム・皮革類	0.3%	7.0%	0.0%	0.2%	1.2%
	リサイクル不可の容器包装プラスチック	16.8%	10.8%	17.2%	16.8%	16.0%
	その他可燃物					
容器包装紙類(リサイクル不可)	0.1%	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%	
紙おむつ	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	
リサイクル不可の紙類	1.2%	0.0%	0.1%	1.5%	0.7%	
繊維類(リサイクル不可)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
その他可燃物	0.6%	0.7%	3.7%	0.2%	1.7%	
不燃物	その他金属	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%
	乾電池を除く電池	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	蛍光灯・蛍光管	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	スプレー缶残存ガス・液なし	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
	カセット式ガスボンベ残存ガスなし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライター残存ガスなし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他不燃物	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
処理困難物	スプレー缶残存ガス・液あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	カセット式ガスボンベ残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライター残存ガスあり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他処理困難物等	0.2%	4.9%	0.0%	0.0%	0.8%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3 排出容器

排出されている資源・ごみの容器別の重量を調査した。

(1) 可燃ごみ

可燃ごみの排出容器の割合は、レジ袋が 43.9%、透明・半透明ビニール袋が 35.4%、容量表示がある袋が 17.4%などである。

排出容器 1 個あたりのごみの重量は、レジ袋が 1.10 kg、透明・半透明ビニール袋が 3.11 kg、45 リットルの袋が 3.53 kg などである。

表 2 - 7 可燃ごみの排出容器

種類		可燃ごみ			
		個数 (個)	割合 (%)	重量 (kg)	容器 1 個あ たりの重量 (kg/個)
容量表示がある袋	10リットル	2	0.2%	1.61	0.81
	20リットル	1	0.1%	3.18	3.18
	30リットル	21	2.3%	56.56	2.69
	45リットル	129	14.0%	455.54	3.53
	70リットル	5	0.5%	24.62	4.92
	90リットル	3	0.3%	18.38	6.13
	小計	161	17.4%	559.89	3.48
レジ袋		403	43.9%	442.28	1.10
透明・半透明ビニール		325	35.4%	1010.61	3.11
紙袋		16	1.7%	24.42	1.53
段ボール		9	1.0%	16.89	1.88
容器出し	45リットル	3	0.3%	17.23	5.74
	70リットル	1	0.1%	9.32	9.32
	90リットル	1	0.1%	6.88	6.88
合計		919	100.0%	2087.52	2.27

この他に、草の束などが袋に入っていない状態で22.75kg排出された。

(2) 不燃ごみ

不燃ごみの排出容器の割合は、レジ袋が71.8%、透明・半透明ビニール袋が17.0%、容量表示がある袋が8.5%などである。

排出容器1個あたりのごみの重量は、レジ袋が1.11kg、透明・半透明ビニール袋が2.80kgなどである。

表2-8 不燃ごみの排出容器

種類		不燃ごみ			
		個数 (個)	割合 (%)	重量 (kg)	容器1個あ たりの重量 (kg/個)
容量表示がある袋	30リットル	3	1.6%	5.13	1.71
	45リットル	13	6.9%	24.75	1.90
	小計	16	8.5%	29.88	3.61
レジ袋		135	71.8%	149.45	1.11
透明・半透明ビニール		32	17.0%	89.70	2.80
紙袋		2	1.1%	2.01	1.01
段ボール		2	1.1%	0.92	0.46
容器出し	90リットル	1	0.5%	0.77	0.77
合計		188	100.0%	272.73	1.45

この他に、傘などが袋に入っていない状態で25.59kg排出された。

(3) 容器包装プラスチック

容器包装プラスチックの排出容器の割合は、レジ袋が61.7%、透明・半透明ビニール袋が25.8%、容量表示がある袋が12.5%などである。

排出容器1個あたりのごみの重量は、レジ袋が0.24kg、透明・半透明ビニール袋が0.58kgなどである。

表2-9 容器包装プラスチックの排出容器

種類		容器包装プラスチック			
		個数 (個)	割合 (%)	重量 (kg)	容器1個あ たりの重量 (kg/個)
容量表示がある袋	20リットル	2	0.7%	0.54	0.27
	30リットル	5	1.7%	2.51	0.50
	45リットル	26	8.8%	21.21	0.82
	70リットル	3	1.0%	1.19	0.40
	90リットル	1	0.3%	1.29	1.29
	小計	37	12.5%	26.74	0.72
レジ袋		182	61.7%	42.84	0.24
透明・半透明ビニール		76	25.8%	43.82	0.58
容器出し	-	0	0.0%	0.00	0.00
合計		295	100.0%	113.40	0.38

この他に、発泡スチロールなどが袋に入っていない状態で0.28kg排出された。

第3章 過去の調査結果との比較

平成21年度から今年度までの調査結果について、全地域平均の推移を示す。

1 可燃ごみの組成割合による比較

平成22年度調査と今年度調査を比較すると、可燃物が78.6%から78.1%、資源化可能物が20.8%から20.1%、不燃物が0.4%から0.6%、処理困難物が0.2%から1.2%となっている。分別が正しくないものが混入している割合は21.4%から21.9%となっている。

また、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック（汚れが落ちないまたは落とすにくいもの）は3.5%であった。

図3-1 可燃ごみの組成の推移

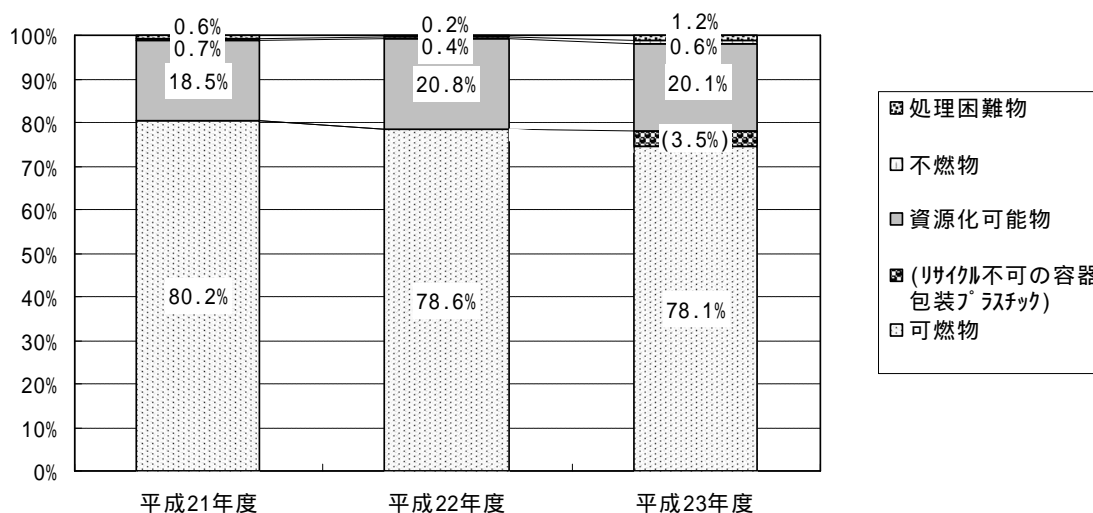


表3-1 可燃ごみの組成の推移

分類/年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
可燃物	80.2%	78.6%	78.1%
厨芥類	47.4%	45.7%	45.0%
木草類	11.7%	11.1%	9.8%
製品プラスチック	3.0%	3.9%	2.9%
ゴム・皮革類	1.2%	1.3%	0.5%
リサイクル不可の容器包装プラスチック			3.5%
その他可燃物	17.0%	16.5%	16.4%
資源化可能物	18.5%	20.8%	20.1%
紙類	9.7%	11.2%	14.3%
繊維類	3.1%	3.7%	2.1%
ペットボトル	0.2%	0.3%	0.4%
容器包装プラスチック	5.3%	5.7%	3.0%
びん・缶等	0.2%	0.1%	0.3%
不燃物	0.7%	0.4%	0.6%
処理困難物	0.6%	0.2%	1.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

2 不燃ごみの組成割合による比較

平成 22 年度調査と今年度調査を比較すると、不燃物が 62.0%から 69.2%、資源化可能物が 21.8%から 18.5%、可燃物が 13.8%から 10.3%、処理困難物が 2.4%から 2.0%となっている。分別が正しくないものが混入している割合は 38.0%から 30.8%となっている。

また、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック（汚れが落ちないまたは落とすにくいもの）は 0.5%であった。

図 3 - 2 不燃ごみの組成の推移

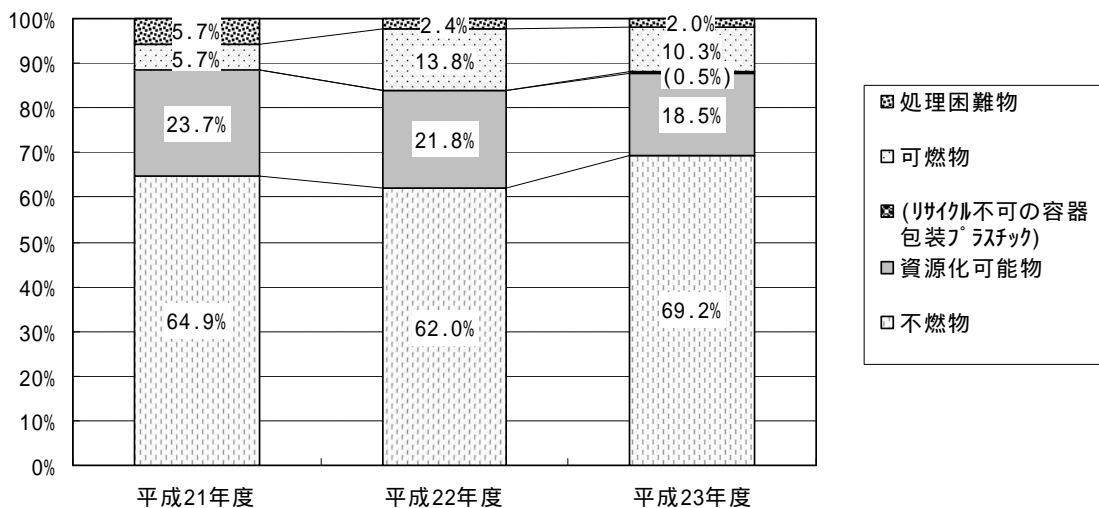


表 3 - 2 不燃ごみの組成の推移

分類/年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
不燃物	64.9%	62.0%	69.2%
資源化可能物	23.7%	21.8%	18.5%
紙類	1.0%	0.2%	0.2%
びん	10.2%	13.3%	11.1%
缶	4.2%	2.9%	2.9%
ペットボトル	2.1%	1.4%	0.6%
容器包装プラスチック	2.7%	3.0%	2.3%
電池	3.5%	1.1%	1.4%
可燃物	5.7%	13.8%	10.3%
製品プラスチック	3.2%	9.1%	5.1%
ゴム・皮革類	0.9%	2.3%	1.3%
リサイクル不可の容器包装プラスチック			0.5%
その他可燃物	1.6%	2.4%	3.4%
処理困難物	5.7%	2.4%	2.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

3 容器包装プラスチックの組成割合による比較

平成22年度調査と今年度調査を比較すると、容器包装プラスチックが86.5%から63.5%、容器包装プラスチック以外の資源化可能物が3.8%から4.7%、可燃物が8.6%から30.6%、不燃物が1.1%から0.4%、処理困難物が0.0%から0.8%となっている。分別が正しくないものが混入している割合は13.5%から36.5%となっている。

また、今年度から可燃物に分類したリサイクル不可の容器包装プラスチック（汚れが落ちないまたは落とすにくいもの）は16.1%であった。

図3-3 容器包装プラスチックの組成の推移

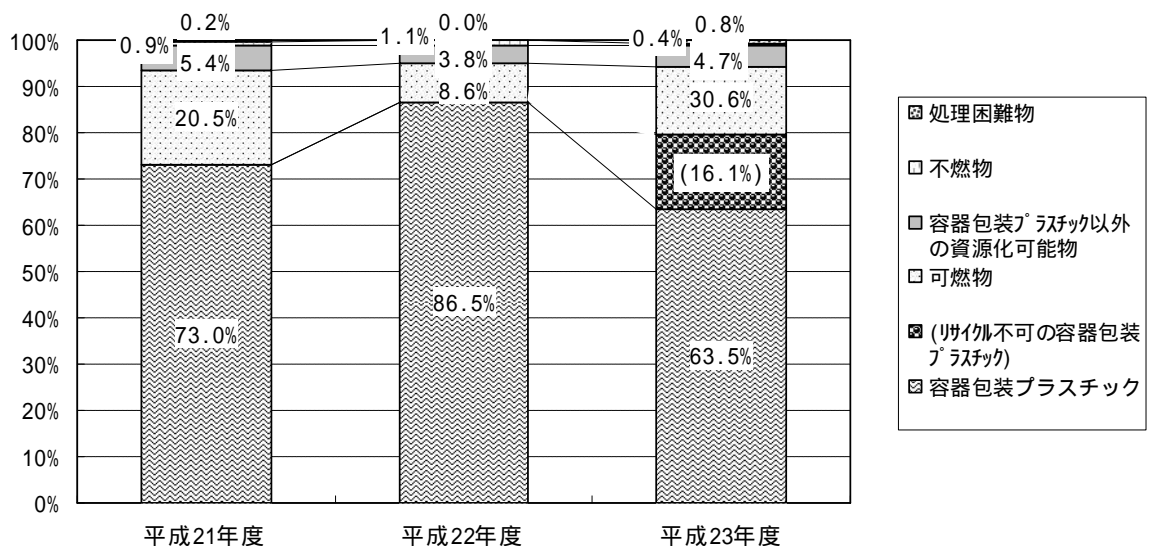


表3-3 容器包装プラスチックの組成の推移

分類/年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
容器包装プラスチック	73.0%	86.5%	63.5%
可燃物	20.5%	8.6%	30.6%
リサイクル不可の容器包装プラスチック			16.1%
製品プラスチック	10.5%	5.2%	8.3%
ゴム・皮革類	0.6%	0.4%	1.2%
その他可燃物	9.4%	3.0%	5.0%
容器包装プラスチック以外の資源化可能物	5.4%	3.8%	4.7%
紙類	1.3%	0.7%	1.1%
びん・缶等	1.8%	0.8%	1.3%
ペットボトル	2.3%	2.3%	2.3%
不燃物	0.9%	1.3%	0.4%
処理困難物	0.2%	0.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

平成 23 年度 練馬区資源・ごみ排出実態調査報告書

平成 24 年 3 月発行

発行 練馬区

編集 環境まちづくり事業本部 環境部 清掃リサイクル課

Tel 03-5984-1058 (直通)

〒176-8501

調査委託

株式会社 市川環境アセス

Tel 047-303-6611

〒272-0801 千葉県市川市大町 96-3

本書は再生紙を利用しています。